

# 国立循環器病センター、市民病院は突然の移転？

「W杯開催地 吹田市が立候補断念 G大阪と条件合わず」。今年3月、新聞紙上でこのような見出しが躍った。2018年と22年に誘致を目指しているサッカーW杯に対し、吹田市は今年1月に開催都市として立候補していたが、わずか2ヶ月もたたないうちに立候補を取り下げたのだ。



市長の「思いつき」？にみんな右往左往

立候補断念の原因は、G大阪と吹田市の条件が一致しなかったこと。W杯に立候補するには、サッカー専用の（仮称）新ガンバスタジアムが必要だ。



エキスポランドが廃業し、寂しくなった万博公園

このスタジアムは、万博記念公園内に、企業や個人からの寄付を中心にG大阪が建設し、吹田市に寄付する予定だった。

しかしスタジアム建設用地の買料や、将来の修繕費負担の問題などで、両者が合意に至らなかった。スタジアムができなければ、W杯は当然無理なので、立候補取りやめとなった訳である。

「今の財政難を考えれば、W杯立候補で税金を使われるのはたまらない。断念で良かった」と思われる方や、「期待していたのに。新ガンバスタジアムで世界のサッカーを見たかった」と言われる方もいるだろう。ここで冷静に考えたいのは、「なぜこれほど大きな問題が、短期間で浮上し、消えていったのか」ということだ。

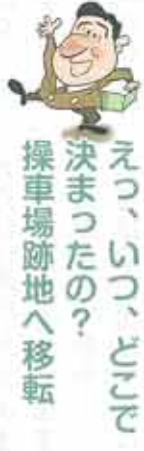
それは入ハリ、阪口吹田市長の「思いつき市政運営」に問題があるのではないが、G大阪から提案があっても、当然予算などクリアすべき問題があるし、W杯招致ともなると、長期間にわたる招致費用など「市民合意」をどうとるのかという問題もある。

この手の話はメディアが飛びつく。記者会見で「ガンバスタジアム

の賃料の問題は？」などの質問があった。質問を受けて市長が饒舌に語りだしたので、市職員が慌てて市長を止めようとした。市長は職員を制止を振り切って「未確定じゃないよ。やるよ、私は」と言い切ったという。（昨年12月22日付け日刊スポーツ）

結果は、「未確定で、やれなかった」(笑)。

議会にも事前にはからず、市民の声がどこにあるかも分からないうちに、そして市職員を振り回して、「断念」した立候補だった。



えっ、いつ、どうやって決まったの？ 操車場跡地へ移転

2009年秋に、吹田市は吹田市北部にある国立循環器病センター（以下国循と略）を、JR岸辺駅前の吹田操車場跡地に移転させた、と発表。

地元千里の住民でなくても、「えっ、それいつで決まったの？」という話が突然出てくる。もともと国循は「地元での建て替え」を決めていたはずなのに。

## すいたレポート

# ドタバタ？ 吹田市



突然、国立循環器病センターの移転が提案された

国循だけではない。吹田市は吹田市民病院も操車場跡地への移転を検討している。吹田市片山町の、今の場所ではダメなのか？ 移転に関わる費用はいくらかかるのか？ そもそも移転する必要があるのか？...。いったい吹田市の重要施策はどこで決まっているのだろうか？



吹田市民病院も移転する？

に依存しない「自立した市民層」のことである。と。

見過ごすことができないのは、この「改革」の先に、格差と貧困が広がる現在の弱肉強食の社会があるということだ。そのせいか、阪口市長肝いりの「みんなを支えるまちづくり」条例は、成立の目途が立たず、3月市議会でも総すかみをくらの提案をとり下げた。痛みばかり押しつけられた「改革」を再び支えるのか、そんなことはできないと「みんな」は考えている（@jshoban）



## 勝手に吹田遺産 その13

# 勝手に吹田遺産

### 吹田の銭湯

「町内に銭湯があるというのは日本の文化や」と友人が語っていましたが、各家庭に浴槽があるのと、経営の大変さから銭湯が激変しています。それでも大阪は日本で一番銭湯の多い町、吹田でも下町を中心に13軒が暖簾をあげています。

元気なおばちゃんが番台に座る七福温泉、かつての朝風呂が懐かしい新泉温泉など、どの湯にも個性があつて、町の顔になっています。

そんな一軒、安威川の近くの出町にある「友ノ会新温泉」を訪ねました。

「昭和37年、まだこのあたり田んぼが多く道に沿って10軒ほどの家があるだけの時代に開業しました。当時はめずらしい、お湯のろ過機を取り入れたり、市内の映画館で「マーシャル」を流したりしていました。」と二代目を引き継ぐ横田さん夫人が語ってくれました。「友ノ会新温泉」という名前も先代から。

「2006年に大改造、環境に配慮し燃料転換をおこない、温泉気分を楽しんでいただくこと、陽イオン交換樹脂を用いた水処理技術で、柔らかくしっとり感のする天然の炭酸泉に近い湯質を作りあげた」といい

ます。

風呂に入らせてもらいました。午後の4時、明るくて広い空間、立ち昇る湯気の中、近くのお年寄りらしい満足そうな顔が並びます。「極楽やね〜」。

「友ノ会新温泉」のある出町、食へ物屋、電気屋、散髪屋、町医者と色々あつて吹田の下町が色濃く残っています。

「出町はいい町や、友ノ会新温泉」がある。広い湯船で思い切り手足を伸ばして、「一生の友である自分の体と語りながら、ゆったりと心と体の手入れをする時間を過ごしたい」。

銭湯を町の活力源に小さい子供から老人までが生き生き楽しめる街でありたい。そんな心意気で友の会新温泉はがんばっています。

横田さんの「銭湯と出町」のほっこりする話をうかがって、幸せになったひと時でした。



## フォーカス

年に何度か署名をする。最近も、市立図書館の委託に反対する署名や、保育や学童保育の充実を求める署名に名前を記した。吹田市は住民運動が盛んで、住民の署名や運動とあいまって、福祉や子育て、環境など、くらしに関わる施策が改善されてきた。「持続可能なまち」をはじめ行政水準全国ランキングにたびたび登場する所以である。

阪口市長の思いは、どうも違うらしい。「市報すいた」に書かれた彼の「地域市民政府」「みんなを支えるまちづくり」構想でよくわかった。行政に対する市民の関わり方が、「陳情、要望、反対運動型」から「参加、参画、提案型」に変わり、その知恵や力で「新たな公共」、地域協働社会を再構築するというのだ。さしすめ「要求」署名などをして、いる私などは、時代遅れの「反対運動型」で、彼の言う「みんな」には入っていない、というところか。

これが阪口市長のオリシナルかといえそうではない。パクリである。2005年、豊高小泉「構造改革」政権が言い出したものだ。当時の政府文書は、「多様な主体による公共サービスの提供体制の構築」、そのためのアウトソーシングと地域協働、そして公務員の雇用の流動化。「市民」とは、行政